

鈴木敏恵の視察報告 第一弾

教育先進国フィンランド 国際学力トップ その理由

すべての教科でコンピテンシー(生きる力)をねらうフィンランド

鈴木 敏恵 & 中嶋 博先生 (早稲田大学名誉教授・フィンランド科学アカデミー外国会員)



鈴木 敏恵 (すずき としえ)

未来教育デザイナー・一級建築士・千葉大学講師。島根県立看護短期大学客員教授。21世紀の教育を実践する第一人者。『次世代IT活用未来型教育研究委員』文科省・総務省連携、『中央防災会議専門委員』内閣府等公職歴任。
http://www02.so-net.ne.jp/~s-toshie/

■コンピテンシーとは

知識や情報の活用能力や円滑に人間関係を構築する能力 (OECDの定義による)

■生徒の学校評価

■「学校は、決断する自信をつけてくれた」

	日 本	OECD平均
全くその通りだ	8.4	15.5
その通りだ	43.5	54.6
その通りでない	36.7	20.6
全くその通りでない	10.5	6.8

(%)

■「学校は、仕事に役立つことを教えてくれた」

	日 本	OECD平均
全くその通りだ	10.8	41.2
その通りだ	48.9	45.7
その通りでない	30.6	8.2
全くその通りでない	9.0	3.4

(%)

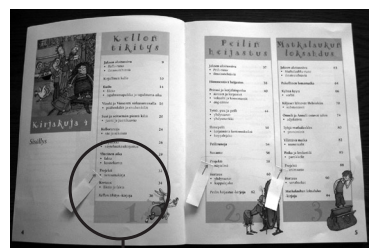
無回答の結果は表示していないため割合の合計は100%にはならない。

(PISA2003年調査報告書より)

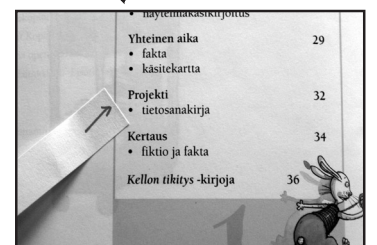
■フィンランドの教科書



左から小学1年、4年、6年の国語、2年の環境と自然の教科書



国語(4年)目次



プロジェクトの項目が単元の終わりに必ずある。

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学



中嶋 博 (なかじま ひろし)

早稲田大学名誉教授。フィンランド科学アカデミー外国会員。(財)教科書研究センター特別研究員として、北欧の教科書研究の第一線で活躍している。1962年ヘルシンキ大学の客員教授として北欧教育事情の研究を行い、日本の6・3制を提案、導入に至るまでフィンランドの教育改革に貢献した。

■PISAとは

OECD(経済協力開発機構)で行っている国際学力調査「生徒の学力到達度調査(Programme for International Student Assessment)」。

(PISA2003年調査報告書より)

■PISA2003国際学力調査の結果

順位	1	2	3	4	5	6	14
読解力	フィンランド	韓国	カナダ	オーストリア	リトアニア	ニュージーランド	日本
得点	543	534	528	525	525	522	498
数学的リテラシー	香港	フィンランド	韓国	オランダ	リトアニア	日本	
得点	550	544	542	538	536	534	
科学的リテラシー	フィンランド	日本	香港	韓国	リトアニア	オーストリア	
得点	548	548	539	538	525	525	
問題解決力	韓国	香港	フィンランド	日本	ニュージーランド	マカオ	
得点	550	548	548	547	533	532	

※「読解力」

評価分野の定義

自らの目標を達成し、自らの判断と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために書かれたテキストを理解し、熟考する能力。

(PISA2003年調査報告書より)

この新聞が、本気で学校や教育を変えたいと考えているすべての人に役に立つことが願いです。

鈴木 敏恵

http://www.toshie-suzuki.net

2005年11月20日未来教育新聞 第6号

編集 未来教育プロジェクト◎

企画協力 川崎 ひろか

発行 (株) 教育 同 人 社

〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-28-9

TEL 03-3971-5151 FAX 03-3971-5163

http://www.djn.co.jp

鈴木敏恵の視察報告 第一弾

教育先進国フィンランド 国際学力トップ その理由

すべての教科でコンピテンシー(生きる力)をねらうフィンランド

鈴木 敏恵 & 中嶋 博先生 (早稲田大学名誉教授・フィンランド科学アカデミー外国会員)



鈴木 敏恵 (すずき としえ)

未来教育デザイナー・一級建築士・千葉大学講師。島根県立看護短期大学客員教授。21世紀の教育を実践する第一人者。『次世代IT活用未来型教育研究委員』文科省・総務省連携、『中央防災会議専門委員』内閣府等公職歴任。
http://www02.so-net.ne.jp/~s-toshie/

■コンピテンシーとは

知識や情報の活用能力や円滑に人間関係を構築する能力 (OECDの定義による)

■生徒の学校評価

■「学校は、決断する自信をつけてくれた」

	日 本	OECD平均
全くその通りだ	8.4	15.5
その通りだ	43.5	54.6
その通りでない	36.7	20.6
全くその通りでない	10.5	6.8

(%)

■「学校は、仕事に役立つことを教えてくれた」

	日 本	OECD平均
全くその通りだ	10.8	41.2
その通りだ	48.9	45.7
その通りでない	30.6	8.2
全くその通りでない	9.0	3.4

(%)

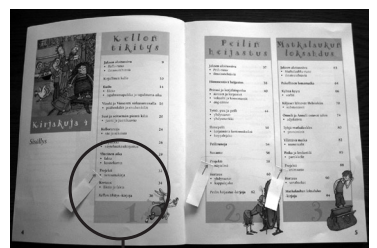
無回答の結果は表示していないため割合の合計は100%にはならない。

(PISA2003年調査報告書より)

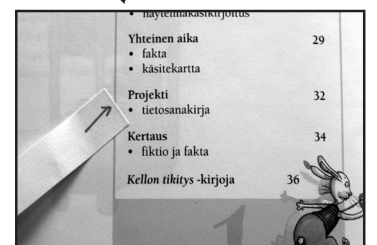
■フィンランドの教科書



左から小学1年、4年、6年の国語、2年の環境と自然の教科書



国語(4年)目次



プロジェクトの項目が単元の終わりに必ずある。

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学

鈴木 敏恵 みんなと同じに卒業することが大事なのではなくて、自分自身が確かな力をつけることが大切という考えがあるんですね。ほかに特徴はありますか。

中嶋 博 教科学力に偏らない総合的な学



中嶋 博 (なかじま ひろし)

早稲田大学名誉教授。フィンランド科学アカデミー外国会員。(財)教科書研究センター特別研究員として、北欧の教科書研究の第一線で活躍している。1962年ヘルシンキ大学の客員教授として北欧教育事情の研究を行い、日本の6・3制を提案、導入に至るまでフィンランドの教育改革に貢献した。

■PISAとは

OECD(経済協力開発機構)で行っている国際学力調査「生徒の学力到達度調査(Programme for International Student Assessment)」。

(PISA2003年調査報告書より)

■PISA2003国際学力調査の結果

順位	1	2	3	4	5	6	14
読解力	フィンランド	韓国	カナダ	オーストリア	リトアニア	ニュージーランド	日本
得点	543	534	528	525	525	522	498
数学的リテラシー	香港	フィンランド	韓国	オランダ	リトアニア	日本	
得点	550	544	542	538	536	534	
科学的リテラシー	フィンランド	日本	香港	韓国	リトアニア	オーストリア	
得点	548	548	539	538	525	525	
問題解決力	韓国	香港	フィンランド	日本	ニュージーランド	マカオ	
得点	550	548	548	547	533	532	

※「読解力」

評価分野の定義

自らの目標を達成し、自らの判断と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために書かれたテキストを理解し、熟考する能力。

(PISA2003年調査報告書より)

フィンランド印象風景

鈴木敏恵が見た

フィンランド、その印象を一言でいえば「大切なことを知る国」です。
私が一週間滞在したなかで特に心に残ったことをお伝えします。

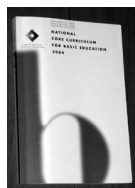


学習指導要領



フィンランド教育文化庁国際交流課参事官フレデリック・フォースベリ氏(中央)と国家教育委員会 義務教育課程担当官 クリッセ・ハンネン氏(右)、鈴木敏恵(左)

1974 年は厚くて 2 冊あったが、以降徐々に削られ、現在の厚さ 2cm 足らずの薄いものになった。
わかりやすく現場でやる必要のあることが網羅されている。



学習指導要領

鉛筆・事典・コンピュータ

小学校 1, 2 年生で基本的なコンピュータの操作を身につけます。3 年生になったら授業の中で活用しています。例えば「算数」の授業では表計算、「国語」の授業でワープロソフトといった感じです。何かを調べるとき使うばかりでなく、授業の進行にともない自分の考えをまとめたり表現したりというときに使っているようでした。インターネットに関しては各家庭の判断によるとのことでした。(メイラハティ小学校)



左奥に PC が見える。教卓はない。子ども同士の「学び合い」がしやすい机のレイアウト。

「国語」の授業 - プロジェクト

クラスで一冊の「情報辞典」をつくる国語の時間のプロジェクト。その題材は、子どもたちが自分で選んだものです。例えば、「車」や「鳥」や「森」などいろいろです。テーマを決め本やコンピュータから情報を手に入れ、それを自分の考えでまとめ凝縮した文章と絵で表現します。それを順に綴じ一冊にしたものが「情報辞典」です(これは凝縮ポートフォリオといえるかもしれません)。



自分たちで作った「情報辞典」を手にする子どもたち。(メイラハティ小4年)

日本との共通性

「日本をどう思う？」と聞くと「似ていると思う」と言われました。それは、奥ゆかしいところと…。また、森とテクノロジーの国であることも似ています。森があるから感性も近いのでしょうか。目に見えない妖精を感じる心。ムーミンは森に住む妖精です。ちょっと嬉しかったのは、訪問したところがちょうど紅葉の始まる季節でした。
日本人以上に四季の移り変わりを楽しむ国民性も似ています。

静寂の街

静かな街だなと思いました。人が大勢いる駅の構内、ホテルのロビーなどはざわめきはあっても雑音がありません。放送が一切ないのです。
日本との大きな違いを感じました。ここでも人々の自律の精神を感じました。「車内では携帯電話のスイッチをお切りください」「足元に気をつけてください」など言われなくても自ら考えながら行動しているからだと思っています。

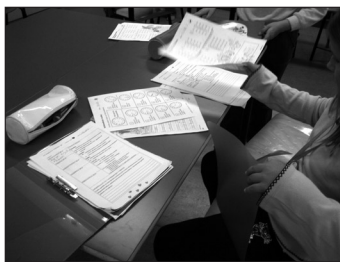


「ポートフォリオ」について

訪問した先方で質問しました。

「私はポートフォリオというのは非常にいい考えだと思っています。先生にとってはプロセスや成果を見られるので、自分の生徒のことをより深く知ることができ、いかに正確に一人の子どもに対応するか考えられます。また子どもにとっては自分が学習してきたものを確認したり家族も知ることができます。学習する者が自分で判断して知識などを身につけていくのが一番の理念です、そのためにも一人ひとり違う個人をベースにしたポートフォリオは大事だとおもっています。人間形成にもとても有効だとおもいます。」(国家教育委員会 クリッセ・ハンネン氏)

「すべての教科でポートフォリオをやっています。算数、国語、理科など学科ごとでやっています。ポートフォリオファイルで子どもが自分で学習したことがわかりますし、先生と生徒と一緒に何をやって何を学習したのかを見られるようにしています。親も同じように子どもがいま何をやっているのか分かります。」(メイラハティ小学校 パルテル先生)



今週の目標や自己評価をシートに書く。それをファイルの一番前に綴じ、その後に次々に学習したプリントの成果を自分自身で確認できるようにファイルに綴じています。(ストロンベリ小学校 3 年生の教室にて)

- フィンランド DATA -

- 人口 520 万人
(福岡県をわずかに上回る)
- 面積 338,145 平方キロ
(日本：378,000 平方キロ)
- 訪問校 (ヘルシンキ市内)
メイラハティ小学校
ストロンベリ小学校



生徒が学校の受付

びっくりしました。普通の授業時間なのに男の子と女の子が建物の入り口のそばに机を置いて、訪問者を確認して校舎のドアを開ける係をしていたのです。学校のためにと使命感をもって手を挙げた子どもたちです。同様に図書コーナーも子どもが受付をしていました。朝からずっとです、人が来ないときはワークシートをしていました。



自由と規律

メイラハティ小学校でのこと。子どもたちは授業中でも喉が乾いたら水筒のお水を飲んだりしていました。教室にはソファがありそこに休みながらリラックスして先生の話を聞いている子もいます。一見すると日本よりかなり自由と映ります、しかし社会のルールはしっかり守っています。電車では 3 人掛けのシートにきちんと座る、学校内では移動するときにきちんと列を作って歩く、などです。
またフィンランドでは電車やバスに乗るのに、チケットを買いますが、それをチェックすることはありません。それでも、利用者はきちんと運賃を払っています。自己申告なのです、一人ひとりの社会意識を感じます。



遠 足



できた」「地図にあった市の境を自分で歩いて確かめられた」「もっと工場の仕組みを勉強したかった」等々・・・
すばらしいな！と思いました。

遠足に同行しました。遠足から帰ったあと、教室で先生が「疲れた人？」子ども「はい」。先生は問います。「疲れた価値はあった？」子どもたちは次々に応えます、「あったよ。教科書にあった木について確認



授業時間は日本より少ない

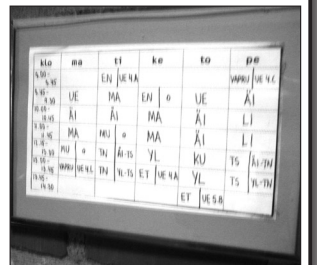
■年間平均標準授業時間の比較

	日 本	フィンランド
7 ～ 8 歳	709	530
9 ～ 11 歳	761	673
12 ～ 14 歳	875	815

(時間)

「図表でみる教育 OECD インディケータ (2004 年版)」より。データは 02 年。

メイラハティ小4年の時間割
(45 分授業) 2 時間続きは、体育と音楽と手芸 (工芸)。国語は、ほぼ毎日ある。



一人に 1 冊！ ポートフォリオシート集

定価 各 240 円 (税込)

これでできる !! 未来教育 プロジェクト学習

21 世紀の学力 / コンピテンシー
が身につく！

設計・著者 鈴木 敏恵

すぐ授業ができる！ ポートフォリオ解説書

定価 各 630 円 (税込)

